

# 先進国債券・茨城栃木関連株式 バランスファンド

## 愛称：ふたつの夢

単位型投信／内外／資産複合

### 償還交付運用報告書

第5期(償還日2021年3月16日)

作成対象期間(2020年10月13日～2021年3月16日)

第5期末(2021年3月16日)	
償還価額	11,018円20銭
純資産総額	3,239百万円
第5期	
騰落率	3.9%
分配金(税込み)合計	－円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。なお、当ファンドは単位型投信であり、実際には分配金は再投資されませんのでご注意ください。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)は、野村アセットマネジメントのホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>  
右記ホームページを開く

⇒「ファンド検索」にファンド名を入力しファンドを選択  
⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

#### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、グローバル債券マザーファンドおよび茨城・栃木株式マザーファンド受益証券への投資を通じて、世界各国の公社債およびわが国の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として運用を行いました。

このたび、約款の規定にもとづき償還決算を行い、償還価額が決定いたしました。

ここに設定日から償還までの運用経過をご報告いたしますとともに、ご愛顧に対し厚く御礼申し上げます。

#### 野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号



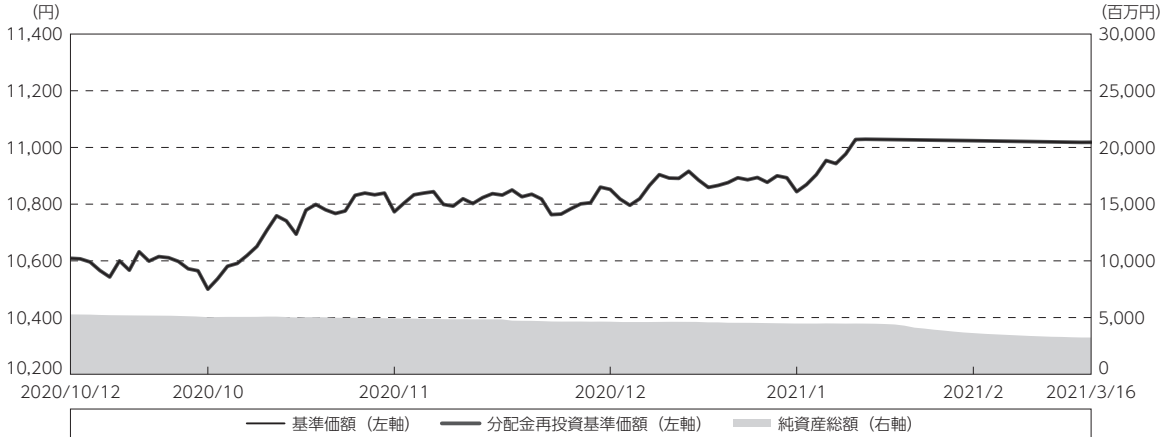
サポートダイヤル 0120-753104  
<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2020年10月13日～2021年3月16日)



期 首： 10,609円

期末 (償還日)：11,018円20銭 (既払分配金 (税込み)：一円)

騰 落 率： 3.9% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首 (2020年10月12日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。なお、当ファンドは単位型投信であり、実際には分配金は再投資されませんのでご注意ください。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首10,609円から償還時11,018.20円となり、409.20円の値上がりとなりました。国内株式が上昇したことなどが、主な値上がり要因となりました。

## 1万口当たりの費用明細

(2020年10月13日～2021年3月16日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 46	% 0.425	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投信会社)	(22)	(0.201)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
( 販売会社)	(22)	(0.201)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
( 受託会社)	( 3)	(0.023)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売買委託手数料	1	0.007	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
( 株 式)	( 1)	(0.006)	
( 先物・オプション)	( 0)	(0.001)	
(c) その他費用	1	0.005	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 保管費用)	( 0)	(0.003)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
( 監査費用)	( 0)	(0.001)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( その他)	( 0)	(0.000)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	48	0.437	
期中の平均基準価額は、10,798円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

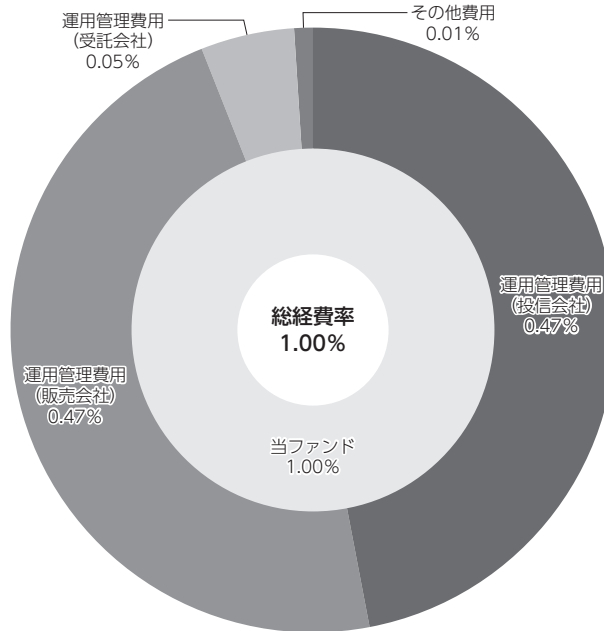
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.00%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

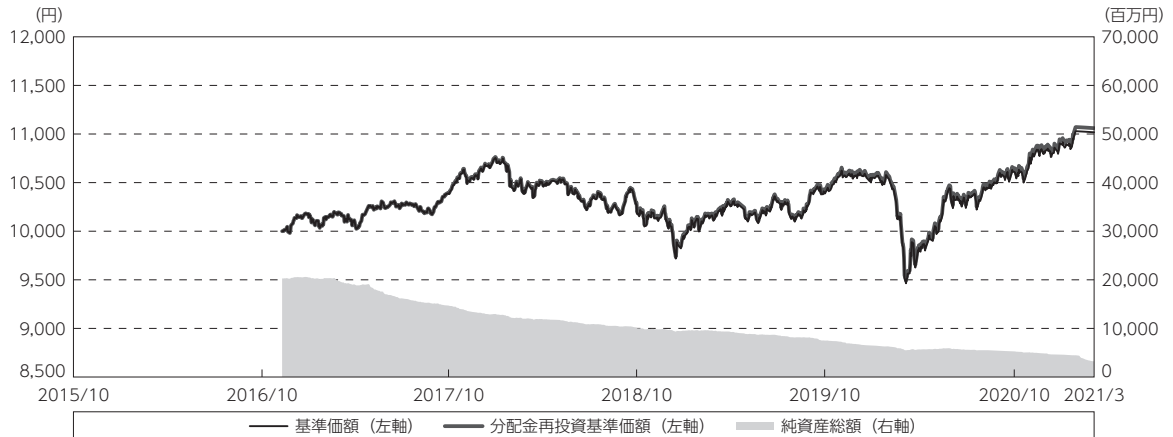
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2015年10月13日～2021年3月16日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。なお、当ファンドは単位型投信であり、実際には分配金は再投資されませんのでご注意ください。

(注) 当ファンドの設定日は2016年11月22日です。

	2016年11月22日 設定日	2017年10月10日 決算日	2018年10月10日 決算日	2019年10月10日 決算日	2020年10月12日 決算日	2021年3月16日 償還日
基準価額 (円)	10,000	10,388	10,273	10,387	10,609	11,018.20
期間分配金合計(税込み) (円)	—	10	10	10	10	—
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	4.0	△ 1.0	1.2	2.2	3.9
純資産総額 (百万円)	20,275	14,705	10,127	7,494	5,279	3,239

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2017年10月10日の騰落率は設定当初との比較です。また、償還日の騰落率は償還日の直前の決算日との比較です。

(注) 当ファンドでは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

**投資環境**

(2020年10月13日～2021年3月16日)

**《債券・為替市場》**

米国では、強力な金融・財政政策の下支えのもと緩やかな景気回復の動きが継続しました。FRB（米連邦準備制度理事会）は新型コロナウイルスの感染動向、ひいては景気の先行きには不透明感が残るとして、金融緩和姿勢を維持しました。米国経済の緩やかな回復傾向が継続したことに加え、新型コロナウイルスワクチン開発の進展や追加財政刺激策への期待、金融緩和の縮小が早まるとの思惑から、米国債利回りは上昇（価格は下落）しました。

ユーロ圏では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴いロックダウン措置を再導入する国が多く見られたものの、金融・財政政策の下支えを受けて緩やかな景気回復の動きが継続しました。景気回復の動きを背景に、ドイツ国債利回りは上昇しました。

日本では、日銀の金融緩和政策が債券市場を下支えしたものの、海外の債券利回りの上昇につれて、利回りは上昇しました。

為替市場では、FRBの強力な金融緩和政策が米ドルの下落圧力となり、米ドルは円に対して一時下落（円高）しました。しかし、米国債利回りが上昇する中で米ドルは下落幅を縮小し、前期末比ではほぼ変わらずとなりました。また、緩和的な金融・財政政策に支えられて世界景気が回復し、市場のリスク回避的な姿勢が後退する中で、ユーロは円に対して上昇（円安）しました。

**《日本株式市場》**

米国大統領選挙において民主党のバイデン氏勝利との見方が強まったことで投資家心理が改善したことや、米大手製薬会社の新型コロナウイルスワクチンが高い有効性を示したことで世界的な経済活動回復への期待が広がったこと、国内外の堅調な経済指標により経済の回復が続いていることが確認されたことなど堅調な動きとなりました。一方で、日本も含めて世界的な新型コロナウイルスの新規感染者数増加は歯止めがかからず、新型コロナウイルス変異種の発生や国内においては2回目の緊急事態宣言が発令されましたが株式市場への影響は限定的なものとなりました。その後は、海外で新型コロナウイルスワクチンの普及が進んだことや世界的に新規感染者数が減少傾向となったことに加えて、国内でワクチン接種が開始されることなども好感され、日経平均は約30年ぶりに3万円台まで上昇しました。

**当ファンドのポートフォリオ**

(2020年10月13日～2021年3月16日)

**[先進国債券・茨城栃木関連株式バランスファンド]**

当ファンドは、世界各国の公社債およびわが国の株式を実質的な主要投資対象とし、[グローバル債券マザーファンド]と[茨城・栃木株式マザーファンド]への投資を行ないました。

投資比率はそれぞれ70%、30%を基本とし、定期的にリバランスを行ないました。

支払済みの分配金累計額を加算した基準価額（1万口当たり）が一定水準（11,000円）以上に到達後は、償還に向けて[グローバル債券マザーファンド]を売却し、[茨城・栃木株式マザーファンド]は保有株式を売却し安定運用に移行しました。

## 【グローバル債券マザーファンド】

米国、欧州（ユーロ圏・英国）、日本の国債等（国債、政府保証債、政府機関債、国際機関債、地方債）に分散投資を行ない、デュレーション<sup>\*</sup>を4.0～5.0年程度としました。通貨変動リスクを低減するために、グローバル債券マザーファンドの外貨エクスポージャー<sup>\*\*</sup>はおおむね0～3%程度と低位に維持しました。年限別では、安定した収益の確保をはかるために短・中期債へ投資したほか、利息収入を期待できる長期債にも投資しました。

※デュレーションとは、債券の利回り変化に対する価格変化の感応度を表し、数値が大きいほど利回り変化に対する価格変化が大きくなります。

※外貨エクスポージャーとは、外貨建て純資産のうち為替ヘッジを行なわなかった額の純資産に対する比率です。

## 【茨城・栃木株式マザーファンド】

### ・株式組入比率

原則として高位組み入れを基本とする運用方針に基づいて2021年2月5日まではおおむね90%以上を維持しましたが2月8日以降は安定運用に切り替え0%としました。

### ・期中の主な動き

茨城県・栃木県に本社や重要な活動拠点を持つ企業を投資対象とし、流動性や財務リスク分析等による選別を経て組入銘柄を決定し投資を行ないました。2月8日より保有株式の売却を開始し安定運用に切り替えました。

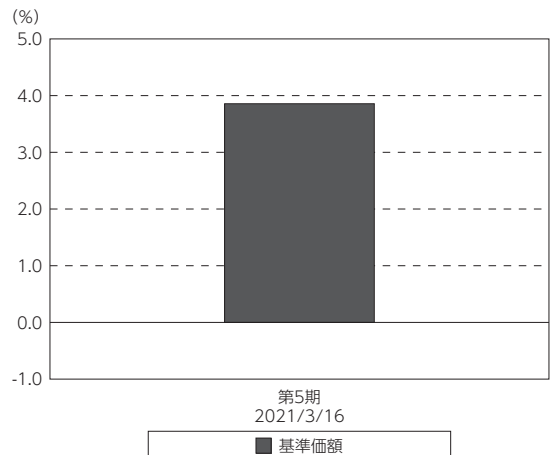
## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2020年10月13日～2021年3月16日)

当ファンドでは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。

基準価額（期別騰落率）



## 分配金

(2020年10月13日～2021年3月16日)

償還のため分配は行ないませんでした。

## 設定来の運用経過

### < 設定来の基準価額の推移 >



#### ○基準価額の主な変動要因

基準価額は、設定時10,000円から償還時11,018.20円となりました。設定来お支払いした分配金は1万円当たり40円となりました。

#### 第1期 (2016/11/22～2017/10/10)

国内株式が上昇したことなどが、主な値上がり要因となりました。

#### 第2期 (2017/10/11～2018/10/10)

主な変動要因は国内株式によるものです。

#### 第3期 (2018/10/11～2019/10/10)

グローバル債券が上昇したことなどが、主な値上がり要因となりました。

#### 第4期 (2019/10/11～2020/10/12)

主な変動要因は国内株式によるものです。

#### 第5期 (2020/10/13～2021/3/16)

国内株式が上昇したことなどが、主な値上がり要因となりました。



## お知らせ

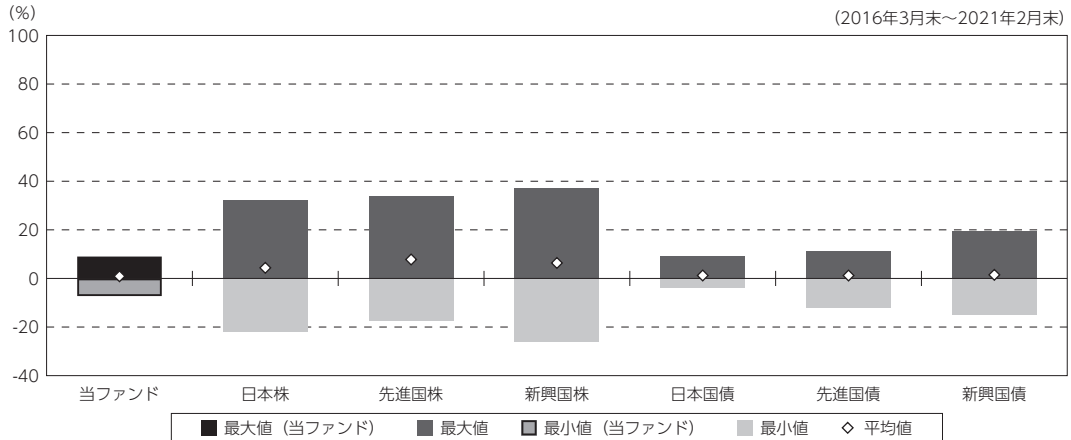
該当事項はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	単位型投信／内外／資産複合	
信託期間	2021年3月16日をもちまして繰上償還いたします。(設定日2016年11月22日)	
運用方針	グローバル債券マザーファンドおよび茨城・栃木株式マザーファンド（以下「各マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、世界各国の公社債およびわが国の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。支払済みの分配金累計額を加算した基準価額（1万口当たり）が一定水準（11,000円）以上となった場合には、短期有価証券、短期金融商品等の安定資産による安定運用に切り替えることを基本とします。 為替ヘッジ（他通貨による代替ヘッジを含みます。）は各マザーファンドにおいて行うため、当ファンドにおいては原則として為替ヘッジを行いません。	
主要投資対象	先進国債券・茨城栃木関連株式 バランスファンド	各マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、公社債および株式等に直接投資する場合があります。
	グローバル債券マザーファンド	世界各国の公社債を主要投資対象とします。
	茨城・栃木株式マザーファンド	わが国の株式を主要投資対象とします。
運用方法	各マザーファンド受益証券への投資を通じて、世界各国の公社債およびわが国の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。	
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）から、基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	9.0	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
最小値	△ 7.3	△ 22.0	△ 17.5	△ 26.3	△ 4.0	△ 12.3	△ 15.0
平均値	0.9	4.4	7.8	6.4	1.2	1.2	1.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2016年3月から2021年2月の5年間(当ファンドは2017年11月から2021年2月)の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。なお、当ファンドは単位型投信であり、実際には分配金は再投資されませんのでご注意ください。

《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2021年3月16日現在)

2021年3月16日現在、有価証券等の組入れはございません。

マザーファンドの直近の計算期間の内容につきましては、償還運用報告書（全体版）に記載しております。

## 純資産等

項 目	第5期末(償還日)
	2021年3月16日
純資産総額	3,239,162,976円
受益権総口数	2,939,828,355口
1万口当たり償還価額	11,018円20銭

(注) 期中における解約元本額は2,036,187,761円です。

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

### ○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、株式会社東京証券取引所 (㈱東京証券取引所) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、(株)東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、(株)東京証券取引所は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

### ○MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

### ○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)、MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利は MSCI に帰属します。また MSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

### ○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債の知的財産権は、野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI 国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI 国債を用いて行われる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。

### ○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。

### ○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

「JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)」(ここでは「指数」とよびます) についてここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価値や値段を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスを法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JPMorgan Chase & Co. 及びその子会社 (以下、JPM) がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPM やその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持って、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受、プレースメント、エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。

米国の J.P. Morgan Securities LLC (ここでは「JPMSLLC」と呼びます) (「指数スポンサー」) は、指数に関する証券、金融商品または取引 (ここでは「プロダクト」と呼びます) についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。

JPMSLLC は NASD, NYSE, SIPC の会員です。JPMorgan は JP Morgan Chase Bank, NA, JPSI, J.P. Morgan Securities PLC., またはその関係会社が投資銀行業務を行う際に使用する名称です。

(出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他)